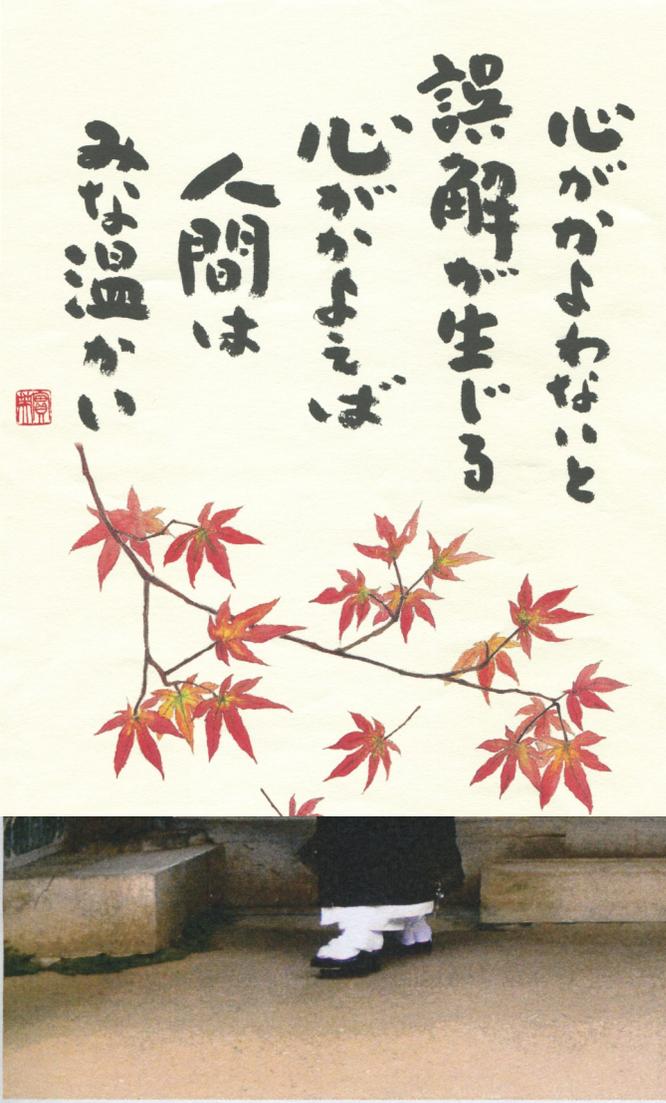
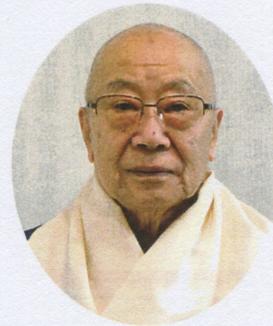


## 管長様の新年ご挨拶

## 如意吉祥



金剛峯寺山門をくぐり、ご入山される葛西管長さま



高野山真言宗管長  
総本山金剛峯寺座主

葛西 光義

平成三十一（己亥）年の新春を迎え、宗内の諸大徳と檀信徒の方々、お大師さまを信奉される全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

この度、思いがけず一宗一山のご推挙を賜り、高野山真言宗管長・総本山金剛峯寺第四百十四世座主職を拝命して高祖弘法大師さまの法燈を継承することとなりました。浅学非才の身ではありますが、お大師さまの御心に添えるよう、ますますの密教興隆と祖山安穩のために精進してまいります。なにとぞご芳志を賜りますようお願い申し上げます。

さて今年には「平成」最後の年であるとともに、五月には新元号による新しい年をむかえる最初の年でもあります。「平成」という元号は、「国の内外、天地とも平和が達成される」ことを祈って命名されたそうですが、国の内外を見渡してみると、まだまださまざまの問題が山積しています。新元号となる次の時代においては、それらの問題が解決され、人々の心が平安であることを願わずにはい

れません。

お大師さまは「仏の慈悲は天の如くに覆い、地の如くに載す」と、仏の慈悲は天のようにすべてを包み守り、大地のようにすべてを載せ抱いていると、そのスケールの大きさを述べておられます。さらに慈悲について「悲則ち苦を抜き、慈は能く楽を与う」と、具体的に悲とは苦しみを取り除くことであり、慈とは安樂を与えることである、ともおっしゃっておられます。

その仏さまの慈悲を実践するために、高野山では毎年元旦から新しい年の無事安穩や五穀豊穡を祈念し、人々が平和に心安らかに暮らせることを祈って「修正会」という法会を厳修しています。

このように連綿と受け継がれてきた伝統を守り、与えられた責務を果たすべく、皆々さまとともにこれまで以上に信仰の道を歩んでまいれる覚悟でございます。皆々さまにおかれましては、お大師さまのご加護のもと、本年が如意吉祥であることを祈念申し上げます。

南無大師遍照金剛

合掌